

鹿児島純心女子大学

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		鹿児島純心女子大学		設置者名	学校法人 鹿児島純心女子学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成17年度)		
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数	教員就職者数
国際人間学部	英語コミュニケーション学科	50人	中一種免(英語) 高一種免(英語)	平成6年度 平成6年度	40人	18人 18人	4人
	こども学科	45人	中一種免(保健体育) 高一種免(保健体育) 養学一種免 養教一種免	平成14年度 平成14年度 平成14年度 平成14年度	35人	29人 12人 13人 14人 22人	7人
看護栄養学部	看護学科	45人	高一種免(看護) 養教一種免	平成6年度 平成6年度	51人	30人 6人 30人	1人
	健康栄養学科	40人	中一種免(家庭) 高一種免(家庭) 栄教一種免	平成15年度 平成15年度 平成15年度	—	— — —	—
入学定員合計		180人	合計		126人	77人	12人
備考	・「免許状取得者数」欄の、左側には各学科等の実人数を、右側には学科等内の教員免許課程ごとの人数を記載している。						

(平成19年2月7日(水))

鹿児島純心女子大学 実地視察委員:西嶋委員、天笠委員、山極委員、山崎委員

右欄の指摘等にかかる現在の状況		委員による指摘又は指導・助言等
全般的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程委員会を中心として、教員養成課程では、特色あるカリキュラム編成を実施し、他の人々や社会のために貢献できる教員の養成を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成に関する教育課程、教員組織等について、一般的に基準を満たしており、良好に実施されている。 ・教職を目指す学生の資質を高めるための教員養成の在り方が問われている。建学の精神を踏まえ、教員養成の水準の維持・向上にさらに努めてほしい。
個別的事項	教員養成に対する理念等 <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教ヒューマニズムに根ざした「全人教育」を教育理念とし、授業科目「純心講座」「キリスト教概論」「人間の探求」「人間関係論」等、全学生を対象とする特色あるカリキュラムを展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成に対する理念・構想が示されているが、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織をより一層充実するように今後も努めてほしい。全人教育という理念をしっかりと踏まえ、全学的な教職課程委員会の機能の充実を期待する。
	教職に関する科目等 教育課程 <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目「特別活動の指導法」において、教育職員免許法施行規則(以下「施行規則」という。)に定められている「各科目に含めることが必要な事項」(以下「必要事項」という。)である「特別活動の指導法」が含まれていない。 ・授業科目「カウンセリングの理論と方法」において、施行規則に定められている必要事項である「教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法」のうち、学校教育現場の実際の場面を想定した内容が含まれていない。 ・授業科目「総合演習」は、「総合的な学習の時間」の目標、内容、方法等についての理解を図ることが含まれており、本来の科目の設置趣旨に合致していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に定められている「各科目に含めることが必要な事項」が含まれていない授業科目が見られるため、全課程を通じて、法令の趣旨に沿った教育課程が編成されているか、法令に定められている「各科目に含めることが必要な事項」が網羅的に含まれた授業科目になっているかなど、細部にわたって、見直しを行うこと。 ・「総合演習」は、本来の科目の設置趣旨に沿って改善を図ること。その上で、シラバスは授業で扱う具体的なテーマを明示すること。

	<p>教育実習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習校を確保するため、母校実習を中心に行っている。 ・教育実習に関する問題点・要望等についての対応を工夫するために、薩摩川内市教育委員会との間で「連携協力推進会議」を設置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(平成18年7月11日答申)において、母校実習の原則禁止が提言されている。今後、母校実習についての改善充実を図り、どのようなことに留意して実施していくのか検討すべきである。 ・実習校等との連携協力が図られているとともに、実習期間中、大学教員が実習校を定期的に訪問するなど、大学として十分な対応が見られるが、更なる実習の成果をあげるために、「連携協力推進会議」等を活用して、大学と学生、実習校等の連携の充実を図ってほしい。
<p>教職指導、 介護等体験等</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・2年次から毎年、履修指導を計画的に行っている。特に、2年次を対象とした履修指導では、鹿児島県教育委員会が求める教師像が紹介され、専門性、人間性を身に付けているだけでなく、地域に根差した教員の養成を求めている。 ・鹿児島県不登校児童生徒支援員「メイクふれんず」への派遣を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・離島地域における採用を踏まえた複数免許取得等、地域の特色や要望に応じた履修指導をより一層充実してほしい。 ・教育実習や「メイクふれんず」等の学校現場体験の充実により、教職を目指す学生の質の向上に期待する。
<p>免許状取得状況及び教員就職状況</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・特記事項なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生就職支援室における就職情報は充実している。今後は、これらを活用した相談体制の更なる充実に努めること。 ・学生が教員として就職した後のアフターケアが求められる時代であり、今後とも一層積極的に取り組んでほしい。
<p>施設・設備の状況</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・特記事項なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関する科目に係る図書、学術雑誌等の資料、教育に関する実践的指導力の向上を図るための各種の教育機器等が十分に備えられている。